

令和4年度
第2回 館林市「日本遺産」推進協議会
議案書



館林市「日本遺産」推進協議会

委員各位

早春の候、委員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本協議会の運営に対しまして多大なるご理解ご指導を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今年度第2回館林市「日本遺産」推進協議会におきまして、審議議案内容及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、誠に勝手ではございますが、一堂に会しての開催は見送り、書面での開催とさせていただきます。

なお、書面にて失礼ではございますが、ご挨拶といたしまして館林市「日本遺産」推進協議会の今年度の取組みにつきまして、簡単にご紹介させていただきます。

まず、人材育成・普及啓発事業といたしまして、1月29日(日)『日本遺産を活かしたまちづくり』をテーマに、市内で実際に活動されている方を対象とした「里沼」セミナーを開催いたしました。実際に近隣の日本遺産認定地で中心にご活躍されている先生方をお招きし、先進事例をご紹介いただきました。参加者にとって「里沼」を活かしたまちづくりに向けた意識を醸成する良い機会になったことと思います。

また、認定当初から継続して市内小・中学校総合学習にて「里沼」を題材とした授業を実施してきております。その結果、昨年10月から11月にかけて市内小・中学生を対象に実施した「里沼」認知度調査では、87.29%という驚くべき数字を記録しました。つまり、わずか3年半の間に、館林市内の子どもたちのほとんどが日本遺産「里沼」を知っている状況に達しています。引続き次年度も小・中学生など、未来の館林市を担う子どもたちへ積極的な「里沼」の普及を行ってまいります。

また、情報発信事業といたしまして、昨年10月に山口県下関市及び福岡県北九州市で開催されました日本遺産フェスティバルin関門や先月足利市にて開催されました両毛3市連携事業日本遺産シンポジウムin足利において、市外の方にも「里沼」をPRしてまいりました。特に、日本遺産シンポジウムin足利における両毛3市長（桐生市・足利市・館林市）パネルディスカッションでは、私もパネリストとして出席し、「里沼」事業をPRするとともに両毛3市、ひいては関東地区にまで拡大した「日本遺産」を活用した連携について議論してまいりました。

文化庁の日本遺産制度は、令和3年度より認定6年経過後に地域活性化の度合いを測り、認定継続の可否を審査する「再審査制度」が導入されました。館林市では、令和7年に再審査が予定されておりますが、地域活性化の更なる強化に向け、私自身が先頭に立ち、引続き地域の宝「里沼」を活かしたまちづくりを推進してまいります。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、今後皆様の益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

令和5年3月吉日

館林市「日本遺産」推進協議会
会長 多田 善洋

令和4年度第2回館林市「日本遺産」推進協議会議案について

このことについて、下記のとおり事務局案を上程いたしますので、ご審議の程、よろしくお願
いいたします。

記

1 議案第1号 令和5年度事業計画（案）について 【P.3～6】

日本遺産認定5年目にあたる令和5年度についても認定申請時に文化庁へ提出した地域活性化計画（6年間）に基づき、年間を通じて日本遺産を活用した各事業に取り組みます。なお、文化庁補助金については令和3年度で交付が終了したため、令和4年度・令和5年度各事業は、市補助事業として実施します。事業の詳細は、令和5年度事業概要（事業費の内訳）のとおりです。

また、毎年出展している日本遺産フェスティバルや文化庁主催の日本遺産の日イベントに参加し、全国に向けた「里沼」のPRに取り組みます。

新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない中、感染状況を考慮しながら事業実施に努めてまいります。

2 議案第2号 令和5年度収支予算（案）について 【P.7】

議案第1号の事業計画（案）に基づき、令和5年度収支予算を総額13,001千円で編成しています。

収入の部のうち、補助金については、市補助金として13,000千円を計上しております。

支出の部は、事業費13,000千円を計上し、その内訳については、令和5年度事業概要（事業費の内訳）のとおりです。事務費1,000千円については、推進協議会及びヌマベーション連絡協議会に係る会議経費、日本遺産連盟負担金等に係る費用を計上しています。

なお、市補助金につきまして、令和5年度～令和7年度の3か年は信金中央金庫からの寄附金（総額1,000万円）が充当される予定であります。

3 報告事項その1 日本遺産「里沼」事業の近況報告について 【P.8～11】

令和元年の文化庁「日本遺産」認定から約3年9か月が経過し、6年間の地域活性化の取り組みも後半に入りました。

認定後の事業展開や地域活性化の進捗状況（目標に対する成果）、令和3年度から新たに導入された再審査制度、事業実施を通しての課題・方向性など日本遺産「里沼」の近況についてご報告いたします。

4 報告事項その2 日本遺産「里沼」情報発信拠点について 【P.12～13】

令和5年4月からの有料施設（田山花袋記念文学館、向井千秋記念子ども科学館、つつじ映像学習館）の共通入館券の導入に合わせて、第二資料館内「旧上毛モスリン事務所」2階に、日本遺産「里沼」ストーリーと構成文化財、近隣施設の情報を発信する新拠点を整備する予定です。

現段階での整備(案)についてご報告いたします。

議案第1号

令和5年度事業計画（案）について

期日	事業内容	備考
4月1日 ～3月31日	各事業実施 ・人材育成事業 ・普及啓発事業 ・情報発信事業 ・活用整備事業	別紙「令和5年度事業概要（事業費の内訳）」のとおり
6月	第1回館林市「日本遺産」推進協議会 ・令和4年度事業報告について ・令和4年度収支決算報告について	館林市文化会館
10月	日本遺産フェスティバルin八王子 ・PRブース出展及びワークショップ	東京都八王子市
2月	2024日本遺産の日イベント ・PRブース出展 日本遺産「里沼」セミナー ・沼を活かしたまちづくりを担うプレイヤー育成のための講座開催	東京都千代田区 館林市文化会館
3月	第2回館林市「日本遺産」推進協議会 ・令和6年度事業計画（案）について ・令和6年度収支予算（案）について	館林市役所

令和5年度 事業概要（事業費の内訳）

■歴史文化部会 10,000 千円

(1) 「里沼」ランドナビゲーター育成支援事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

既存ガイド団体等と連携しながら日本遺産「里沼」の魅力を発信し、館林市内観光を総合的にプロデュースする人材として育成する事業。令和元年度でインバウンドに焦点を当てたガイド育成講座、令和2年度は里沼ランドナビゲーター育成講座(応用編)・里沼ガイド講習会(茂林寺沼編)、令和3年度は英語ガイド講習会を実施した。令和5年度は日本遺産「里沼」を支えるランドナビゲーターとなる人材を発掘・育成するためのステップアップ講座を開催予定。新型コロナウイルス感染症拡大状況を見極めつつ、観光分野の専門家及び外国人等を講師としてインバウンド対応についての講座や他地域視察等も実施予定。また、コロナ禍におけるもてなしの方法(ナビゲート等)のスキルアップにも取り組むものとする。

(2) 館林市「日本遺産」地域プロデューサー活動支援事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

館林市「日本遺産」地域プロデューサーの活動を支援し、情報発信・地域活性化・人材育成・観光・地場産業・歴史文化・地域特色(里沼)における分野の事業展開を促進する。令和元年度の策定した全体計画に基づき、令和2年度以降各分野での事業展開を図りながら、地域住民が館林市「日本遺産」に係る各事業に参加しやすい環境を整える。令和5年度の具体的事業としては、(1)子ども向けの「里沼」体感講座による次世代の担い手発掘・育成、(2)武鷹館イベント開催を通じた来訪者満足度向上と地域活動者層の強化、(3)「里沼」構成文化財案内動画を制作しYouTubeにて公開、(4)里沼のヨシなどを活用した工作教室を開催する。また構成文化財解説動画作成等によりWebを起点とする情報発信活動も実施しながら、Withコロナに対応した柔軟な事業展開を図る。

(3) 官学連携「SATO-NUMA」事業【人材育成事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

地元高校・大学(学生・留学生)と連携し、若者・外国人の意見を反映させながら、解説方法・内容を皆で検討するワークショップを開催する。当該ワークショップには地元ガイド団体等も参画し、館林市「里沼」の魅力を伝えるガイド人材の充実を図る。ワークショップは令和元年度に『城沼』、令和2年度に『多々良沼』、令和3年度に『茂林寺沼』、令和4年度に『もてなし文化(前半)』で実施し、日本遺産「里沼」ストーリーの理解度及び来訪者満足度向上のための各沼周辺散策マップ原案作成を行った。令和5年度では『もてなし文化(後半)』及び『近藤沼・蛇沼』をテーマにワークショップを行い、その成果をもとに引続き周遊マップの印刷作成にも取り組むものとする。

また、小型電動ヴィークル等を活用した「里沼」(当面は沼ごと)の周遊ツール創出の検討を行う。

(4) 館林市「日本遺産」展示会開催事業【普及啓発事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

館林市「日本遺産」シンポジウムに合わせて日本遺産「里沼」展示会を開催する。また、近隣・首都圏でのPR展示会開催[浅草駅、スカイツリー等]や館林市内巡回展[学校・公民館等公共施設]も引続き実施し、日本遺産「里沼」の普及啓発による知名度向上・ストーリー浸透の強化を図る。展示会開催方法及び内容については、新型コロナの収束状況を考慮しながら、検討・部分変更等も行うことで、柔軟に事業展開を図る。

(5) 館林市「日本遺産」シンポジウム開催事業【普及啓発事業：文化振興課】

[概要]

2,000 千円

近隣認定自治体やストーリーに関連のある自治体と連携して令和元年度に「日本遺産」シンポジウム、令和2年度以降両毛3市(桐生市・足利市・館林市)による日本遺産認定地連携シンポジウムを実施した。令和5年度では、3市連携のより具体的な動きに向けての検討を行う。また、日本遺産「里沼」セミナーを開催し、沼を活かしたまちづくりを担うプレイヤー育成へと繋げる。セミナー開催にあたっては、新型コロナウイルスの収束・終息状況を見つつ、オンライン会議等への代替も検討するものとする。

《日本遺産「里沼」セミナー》

会場:館林市文化会館小ホール

参加者:100名予定

(6) 館林市「日本遺産」Webサイト開設事業【情報発信事業：文化振興課】

[概要]

500 千円

館林市「日本遺産」Webサイトを開設し、ストーリーや構成文化財の諸情報のほか、観光やアクセスマップ及び利便施設などの関連情報を公開し、国内外に向けての積極的なPRを行う事業。単なる開設に留まらず、動画配信や多言語対応化に重点を置くもの。特に来訪予定者の「旅マエ」での事前期待や動機付けの増大を目的とし、SNSとリンクしたサイトの整備を進める。また外国人来訪者のターゲット層を絞り込みながら、欧州「EUROPEAN ROUTE INDUSTRIAL HERITAGE」等のサイトを参考に、VR等の整備や素材集約に努める。さらに情報発信が弱い民間事業者なども取り込み・支援するかたちで館林市「里沼」の情報を一括発信できるサイトの構築を目指す。令和5年度は、過去に積み上げてきた内容を継続・発展させ、各コンテンツの強化や画像・動画更新、取材記事導入による旅マエ誘客の充実、リピート増加のための旅アトコミュニケーションツールの導入に取り組む。また、新たにWebサイト上にオンラインコミュニティページ((仮称)里沼研究所)を設け、「里沼」事業に関するユニークなアイデアの募集や蘊蓄の蓄積など、市内外の多様な層の「里沼」への親近感や事業への参加意識・主体性の向上に繋げる。

(7) 館林市「日本遺産」案内板・サイン整備改修事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

1,000 千円

来訪者の多いつつじが岡公園をはじめとする「里沼」全エリア(市全域)において、「里沼」ストーリー案内サインを設置。案内板デザインは大学等と連携し進める。

また、来訪者の多いつつじが岡公園をはじめとする里沼のもてなし文化エリア(館林駅～つつじが岡公園区間)において、「里沼」誘導サインを設置する。

(8) 館林市まちじゅう「日本遺産」PR事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

1,500 千円

「館林市まちじゅう『日本遺産』PR大作戦」と称し、市内商店街・大型商業店舗及び民間事業者等への幟旗・タペストリー・ステッカーを設置し「日本遺産」をPRするとともに、地域の一体感を醸成する事業。各媒体にQRコードを貼付し、来訪者の「いいね」や感想等による口コミ効果も狙う。また、経年劣化等による補充や新規協力団体への追加。また、地方紙と連携し、マイクロツーリズムを意識した効果的な「里沼」ストーリーの普及啓発を実施する。公式WebサイトやTwitter用ステッカーを作成することで、来訪者に対しリアルタイムでの情報提供に繋げる。

(9) 館林市「日本遺産」AR・Wi-Fi整備事業【活用整備事業：文化振興課】

[概要]

2,000 千円

各沼の拠点施設に設置したWi-Fi環境を維持するとともに、「日本遺産」ストーリー情報入手を目的として導入したARコンテンツ内容をより充実させ「里沼」ストーリーの理解促進を図る。ARアプリのスタンプラリー機能を活用し、各沼の周遊性を高めるコンテンツの作成を行う。日本遺産認定以降、大学(東京電機大学)関係事業者と連携し過去4年間AR事業を実施してきた。令和5年度は、新たなコンテンツの追加(旧秋元別邸、館林駅等)やスタンプラリーの実施により、利用者の満足度向上へと繋げる。

■観光産業部会

2,000 千円

(1) 館林市「日本遺産」パンフレット作成・多言語化事業【情報発信事業：つつじのまち観光課】

[概要]

2,000 千円

官学連携SATO-NUMA事業にて原案を作成した「里沼のもてなし文化」を歩くパンフレットを印刷発行し、里沼周遊満足度の向上を図る。令和元年度つつじのまち観光課にて作成したパンフレット「TATEBAYASHI TRIP」の在庫状況により、修正版の増刷も検討。合わせて多言語化(タイ語・スペイン語)に取り組むことで、インバウンドも含めた観光誘客を促進するものとする。

また、令和3年度日本遺産「里沼」構成文化財に追加認定となった『蛇沼』・『近藤沼』にもスポットを当てた周遊マップの印刷・発行を行う。

令和5年度収支予算(案)について

【収入の部】

(単位：千円)

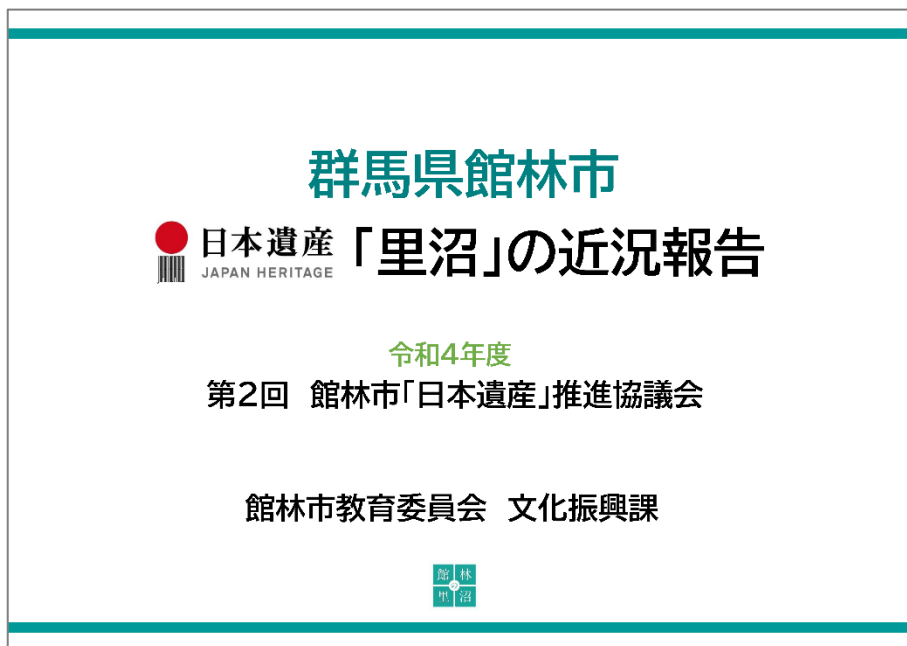
科目	本年度当初 予算額(A)	前年度当初 予算額(B)	比較増減額 (A)-(B)	備考
補助金	13,000	13,000	0	
国庫支出金	0	0	0	
市補助金	13,000	13,000	0	一部中央信用金庫からの寄附金充当
貸付金	0	0	0	
雑入	1	1	0	預金利子等
合計	13,001	13,001	0	

【支出の部】

(単位：千円)

科目	本年度当初 予算額(E)	前年度当初 予算額(F)	比較増減額 (E)-(F)	備考
事業費	12,000	12,000	0	別紙「令和5年度事業概要(事業費の内訳)」のとおり
人材育成事業	2,000	1,800	200	
普及啓発事業	3,000	2,200	800	
調査研究事業	0	0	0	
情報発信事業	2,500	2,500	0	
活用整備事業	4,500	5,500	△1,000	
その他事業	0	0	0	
事務費	1,000	1,000	0	報償費、旅費、通信費等
貸付金返還費	0	0	0	市貸付金返還
予備費	1	1	0	
合計	13,001	13,001	0	

日本遺産「里沼」事業の近況報告について



■令和元年の文化庁「日本遺産」認定から約3年9か月が経過し、6年間の地域活性化の取り組みも後半に入りました。そこで、この場をお借りして、日本遺産「里沼」の近況について報告いたします。

1 認定後の事業展開

館林市「日本遺産」推進協議会	【1】人材育成	①「里沼」ランドナビゲーター育成支援事業 ②館林市「日本遺産」ブランド開発事業 ③館林市「日本遺産」地域プロフェッサー活動支援事業 ④官学連携「SATO-NUMA」事業 ⑤「里沼」体感！ワークショップ事業	<p>■認定申請書(後半)の地域活性化計画に基づく事業</p> <p>■令和元～3年度まで ・5分野18事業 →(国)文化庁補助金を活用</p> <p>■令和4年度～ ・4分野10事業に再編 →市費で対応するほか、ふるさと納税等を活用</p>
	【2】普及啓発	①館林市「日本遺産」展示会開催事業 ②館林市「日本遺産」シンポジウム開催事業 ③日本遺産サミット等開催事業	
	【3】調査研究	①館林市「日本遺産」戦略的マーケティング調査事業 ②館林市「日本遺産」旅客ニーズ調査事業	
	【4】情報発信	①館林市文化財ルネサンスによる「日本遺産」PR事業 ②館林市「日本遺産」Web サイト開設事業 ③館林市「日本遺産」パンフレット作成・多言語化事業	
	【5】活用整備	①館林市「日本遺産」案内板・サイン整備改修事業 ②館林市まちじゅう「日本遺産」PR事業 ③館林市「日本遺産」夏食・川魚食文化PR事業 ④館林市「日本遺産」オランダセンター映像制作事業 ⑤館林市「日本遺産」AR・Wi-Fi 整備事業	

■まず、「認定後の事業展開」についてです。日本遺産制度では認定後6年間、当初定めた「地域活性化計画」に記載した、各分野の事業を実施することが求められています。館林市では、「日本遺産」推進協議会を中心に、人材育成・普及啓発・調査研究・情報発信・活用整備の各分野で事業を実施しました。前半3年間は国の補助金、後半3年間は市予算や、ふるさと納税などを活用しながら引続き事業を展開していきます。

1 認定後の事業展開

令和元～3年度の取組み

館林市「日本遺産」推進協議会(市が事務局)が事業主体となって実施



- 令和元年度から3年度までの主な取組みについては、別刷A3版ホチキス止め資料をご参照ください。「里沼」ストーリーの普及や、実際に沼や構成文化財を訪れた人たちの満足度を高めるため、ガイド育成・サイン整備・パンフレット作成・映像&AR整備・ワークショップ・散策講座などを実施しました。

2 地域活性化の現状

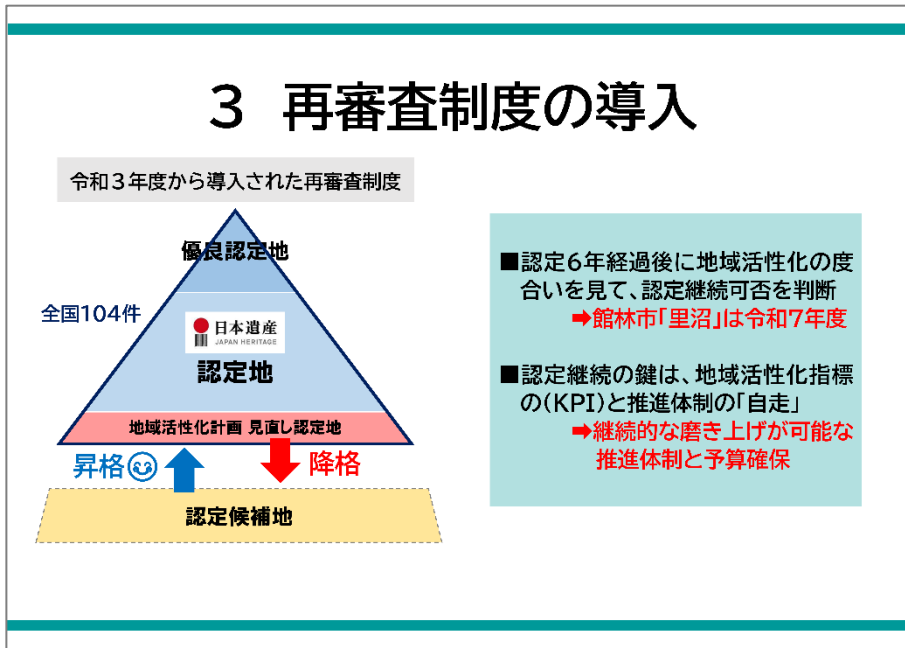
再審査で重要!

目標	効果	KPI (重要業績評価指標)	目標値	現状値	
(1)里沼の継承・発展	「里沼」環境や歴史文化を適切に保存・継承し、観光・産業や人材育成などのまちづくり面での活用・発展を促進します。	小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度 日本遺産「里沼」関連で開発された商品・サービス数【累計】	平成30年度 50% 令和6年度 70% 平成30年度 0件 令和6年度 30件	87.29% 38件	クリア! クリア!
(2)ピックアップ醸成	各分野の組織・団体の新たな連携体制を構築しながら各事業を磨き上げ地域住民のなかにピックアップライドを醸成します。館林市の交流人口を増加させます。【目標200万人】市民一掃となった「もてなしの心」で満足度を向上させリピート来訪を増加させます。	日本遺産への協力件数【累計】 (ガイド団体+経済団体+企業+市民団体)	平成30年度 8件 令和6年度 33件	735件	クリア!
(3)交流人口増加		観光客入り込み数 (※沼来訪者除く。多々良沼←令和3年53万人。万八沼含むと94万人)	平成28年 168万人 令和6年 200万人	50万人	令和5年度から「里沼」への来訪者カウント予定

- 続いて「地域活性化の現状」です。日本遺産では、地域活性化の目標と成果を、経年で効果測定しています。館林市では上記の3つの目標、4つの評価指標を設定しています。

「認知度」・「商品/サービス数」・「協力件数」については、既に現段階で6年後の目標値をクリアしていますが、「観光入り込み客数」は、新型コロナもあり未達成です。県立多々良沼公園さんからの情報では、日本遺産認定後、来訪者が増加し、年間90万人前後の来訪者がいると聞いております。しかし、先ほどの「観光入り込み客数」には「里沼」への来訪者数が加算されておりませんので、次年度では多々良沼以外の「里沼」のカウント・推計を実施し、実際には増加している来訪者数の把握につとめる予定です。

3 再審査制度の導入



■さて、日本遺産には、令和3年度から新たに再審査制度が導入されました。現在104件ある認定地のほかに、次の候補地を選定し、地域活性化の弱い認定地と入替えを行い、最悪の場合、認定を取消するという厳しい制度です。

館林市は令和7年度に再審査を受ける予定ですが、地域活性化の度合いと、推進体制の「自走」が認定継続の鍵となります。

4 「里沼」の課題と方向性

①「活動者の自走」から「資金面の自走」

文化庁が求める「自走」とは？

■令和3年12月日本遺産審査・評価委員会「令和3年度の総括評価・継続審査を踏まえた地域活性化計画等の改善について」

日本遺産ストーリーや構成文化財を活用した観光協会等の法人化まで視野に入れたが、独立採算で組織運営や事業実施を行うことが望ましい。これにより、各分野をプレーヤー事業の活動による誘客の強化、地域経済の活性化につなげ、その収益等を文化財や自然など地産資産の保護にまわしながら、地域再生の好循環を生み出す仕組みが理想である

(1)活動者の自走
行政の資金投入はあるものの、組織運営や事業実施自体はプレーヤーを統括できる人材が担っている状態 **達成しつつある**

(2)資金面の自走
推進体制が将来的に法人化・会社化し、独立採算(一部行政からの資金援助)で組織の運営、事業の実施ができている状態 **今後の課題!**

感動体験

ふるさと納税 企業版ふるさと納税

■「里沼」関連のコンテンツ(食・体験)を返礼品に採用
→「里沼」事業自走のための資金として活用
■将来的な観光DMO化も視野に、研究・検討段階

■最後に、「里沼」の認定継続、「里沼」を活かしたまちづくりに向けて、今後の課題と方向性について、2点お示しします。

1点目が「活動者の自走」から「資金面の自走」です。この3年9か月で「里沼」に関する活動者や民間事業者など、地域のプレーヤーは着実に増えています。今後はこうしたプレーヤーのコンテンツを充実・強化、地域の経済を好循環させながら、市税収やふるさと納税等と連動した、自走のための資金サイクルを構築していきたいと考えています。

4 「里沼」の課題と方向性

②両毛3市連携 → 関東地区連携へ

日本遺産認定3市

桐生市	平成27年度認定・シリアル型 #2 かかあ天下〜くまの辨物語〜
足利市	平成27年度認定・シリアル型 #1 近世日本の教育遺産群〜学心・礼節の本郷
館林市	令和元年度認定・地域型 #70 里沼(SATO-NUMA) —「新里」(新里)「守りの沼」が 開き上げた館林の活道文化—

- 令和2年度〜 3市で連携事業を開始
今年度は 2/5(日)足利市でシンポジウム開催予定
- キャッチフレーズ「人を育み“日本”を支える 両毛3都」
→ 今後は小・中学生や公民館活動等と連動を図り
3市の住民が相互に訪れ、学び合う機会を創出
→ 日本遺産を通して3市での人材育成や
地域コンソーシアム形成までを視野に入りたい
→ 連携事業の“輪”を関東地区まで広げていきたい

- 2点目ですが、一般的に日本遺産は、世界遺産と比較してそれほど認知度が高くない状況です。これを克服するため、館林市では、近隣の認定地である桐生市・足利市と、令和2年度から連携事業を展開しています。将来的には、日本遺産関連事業でつながりのある宇都宮市さん、笠間市さん、行田市さんなど、関東地区の認定地までこの連携を拡大して交流を更に深めつつ、相互のストーリーを活かすための連携に取り組んでいきたいと考えております。

【 参 考 】



■WEBサイト SATO-NUMA.JP



■Twitter 日本遺産！館林市「里沼」公式



- 以上、「里沼」の近況と今後の方向性について、お話ししました。なお、「里沼」に関しては、随時、WEBサイトやTwitterで情報発信していますので、チェックしていただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

日本遺産「里沼」情報発信拠点について

第二資料館を「里沼」情報発信拠点に



上毛新聞 朝刊 1面
令和5年1月16日(月)

旧上毛モスリン事務所




1.経緯

令和3年度(令和4年2月)に桐生市で開催された両毛3市日本遺産シンポジウムの際に、多田市長が「里沼！感動体験」というキーワードを示し、沼と構成文化財の見学だけでなく、食や体験プログラムも合わせたモデルコースの形成について言及。

令和4年度以降、これをさらに具体化したものを「(仮称)わくわく里沼ビレッジ」と題して展開していくことを決定。具体的には、城沼のほりにある無料の尾曳駐車場・館林市第二資料館を起点にして、田山花袋記念文学館、向井千秋記念子ども科学館、つつじ映像学習館に共通入館券を設定して、周遊していただくための整備を進める予定。

2.主旨

令和5年4月からの有料施設の共通パスの導入に合わせて、第二資料館内「旧上毛モスリン事務所」2階に、日本遺産「里沼」ストーリーと構成文化財、近隣施設の情報を発信する新拠点を整備し、城沼周辺を周遊しながら一日中楽しんでいただけるようなルート形成と、交流人口増加のための満足向上を図る。

3.整備詳細

- ①第二資料館門柱用へのサイン設置「(仮称)わくわく里沼ビレッジ」
- ②モスリン1階 馬車コーナー「里沼のもてなし文化」展示設置(1基)
- ③モスリン2階 大広間への赤カーペット敷設
- ④ // 自立式展示物設置(1台)
- ⑤ // 50型モニター設置による映像上映
- ⑥ // 天井用LEDスポットライト増設(6個)

4.現段階での整備(案)



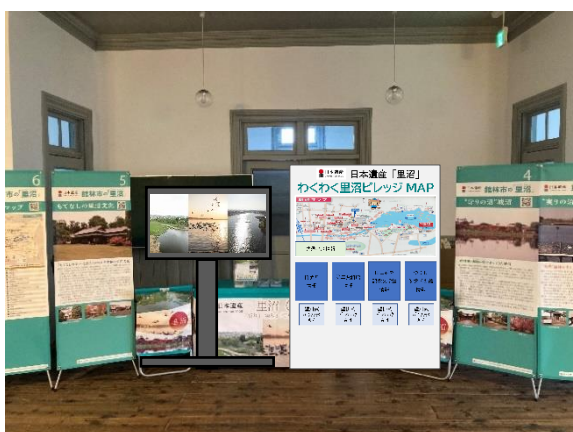
①門柱サイン



②1階展示



③2階 赤カーペット敷設



④⑤2階展示



⑥2階スポットライト